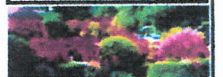


弘教寺

つづき



「妙好人・浅原才市の地」を訪ねて

弘教寺住職 中山英昭

10月末、二泊三日の仏壮・仏婦の合同研修旅行で、島根県を訪ねました。旅の様子は、同号で他の方が担当していますので、その方に譲ることにして、石見地方の妙好人について浅原才市さんを中心に書いてみたいと思います。

島根県は東西に細長い形をしています。大別しますと、東半分が「出雲」、西半分が「石見」に分けられます。

行ってみて分かったことは、出雲地方には、高速道路もすでに整備され、「出雲大社」、県都の「松江」と観光居点があり、近隣には「玉造温泉」、「皆生温泉」等の温泉地もあることから、観光・商業が发展して、中心となっていることでした。

一方、石見地方は、近年世界遺産となった「石見銀山」があり、発展はこれからと思います。昔ながらの家並みや漁村の風景を多く見ますと、むしろホッとしたものを感じます。

旅の初日に、永年訪ねてみたいと思っていた大田市温泉津町の安楽寺様に参拝させていただきました。安楽寺様は妙好人として知られる浅原才市さんゆかりの寺です。

妙好人才市さんは、温泉津町浜田で、1850年(嘉永3年)父要四郎、母スギの間に生ま



第26号

発行所

〒370-0131
伊勢崎市境米岡二七九-二
浄土真宗本願寺派弘教寺
寺報編集部
電話0270(七四)0573

れました。若い時は舟大工として、五十代からは、下駄職人として、「開法」のことを除けば、ごく普通の生涯を送られた方です。

45歳の時に父親が往生しますと、「父の遺言・南無阿弥陀仏」と後になって、詩に書いてありますように、この頃から一層聴聞に励まれたようです。

才市さんには、いろいろな逸話が残されています。安楽寺の前坊守様からお聞きした話ですが、前坊守の義母様が幼少の時に、法座に才市さんが参ることを楽しみにしていました。それは、ご講師の話される最前列の席に座られ、法悦の感極まると、すっと立ち上がり、念仏を称えられたそうです。義母様は毎回その日何度立ち上がられるかを楽しみに法座に参られたとのこと。

また、才市さんは、安楽寺の本堂にお参りすると、ご本尊阿弥陀様、親鸞聖人、蓮如上人、七高僧と順に手を合わせ、語りかけるように味わいを述べながら、お念仏のみ教えに出逢えた喜びを表わされたそうです。

60歳半ば位からは、「口あい」という信仰の味わいを詩にして、ノートにまとめるようになったようです。当初は、削り屑や下駄の端切れに書きとっていましたが、周囲のすすめもあって、ノートに清書するようになり、約70冊1万

首にも及ぶ詩を83年の生涯で書き残しています。有名なお話をもう一つ書かせていただきますと、70歳の時に画家若林春暁という方に自画像を依頼します。出来上がった肖像画を見て、再度お願いをして、頭の前のところに「私の本当の姿」としたかったのでしょうか。2本の角を描かせています。(現在安楽寺様本堂左の間に飾られています)

学問を学んだこともないであろう普通の下駄職人である才市さんの信仰詩に出会い宗教哲学者の鈴木大拙先生は、驚嘆され「詩人でもあり、文人でもあり、実質的大哲学者」と絶賛されています。

石見地方は、才市さんで代表されるような浄土真宗のみ教えに出会い、念仏の歓びとともに生きられた方々をたくさん輩出しています。初めに、述べましたように、島根県でも出雲地方とは違う生活変化の少ない地域なればこそ、人に優しく、宗教的に信仰の厚い精神的風土(土徳)が温存されたのではないかと思います。宿で一ヶ月前から働く関東出身の若い仲居さんが「こちらに来て、皆さんがとても親切なので助かります。」と話してくれたことが、今も耳の底に残っています。

「あさましや

あさましや

おやにこころ

どられてからは

ぶつとさいちは

ひとつのもの」

(才市さんの詩より)



才市の肖像画

(浅原才市翁顕彰会編より)

親鸞聖人と報恩講

親鸞聖人は、1173年(承安3年)に、日野有範の子として誕生します。9歳の時に青蓮院の慈円のもとで、出家得度し、範宴(はんえん)と名のりました。29歳までの20年間比叡山で修行の道を歩みます。比叡山での時代、聖人がどんな修行僧であつたか長い間不明でした。

近代恵心尼文書が世に出たことにより、修行する僧侶を世話する「堂僧」であつたことが分かってきました。29歳の時に、比叡山を下り、法然上人に弟子入りし、念仏のみ教えに出遇い、以後他力念仏の道を生涯かけて歩まれることとなります。

1207年(承元元年)法然上人とその門弟は、承元の法難によって、上人は土佐の地へ流罪、聖人は越後の国府(上越市)に流罪となります。

4年後赦免を受けますが、翌年法然上人も往生されたこともあり、未開の地関東常陸(ひたち)へと移り住みます。聖人は52歳の折には、笠間の地にて、「教行信証」という浄土真宗の教えの大切な聖典を書き上げていらつしやいます。60歳で京都の地に帰られるまでの期間は、他力念仏のみ教えをまとめ、また伝道する充実した時代であつたようです。帰洛されてから聖人は、次々と書物を著(あらかわ)します。身近に親しんで勤めております「和讃」等も晩年に著されたものです。



親鸞聖人の御影

「築地本願寺報恩講しおり」より

親鸞聖人の歴史年表を追っていきますと、88歳の年齢まで、執筆と書写の明け暮れの日々です。師の法然上人と多くの門弟が弾圧され、念仏禁止となつたことへの憤りと悲しみによって、他力念仏の正当性を示し残したかったのではないかと思います。

1262年(弘長2年)末娘の覚信尼様他数名の門弟の見守る中、90歳の往生でした。

報恩講の法要は今の時期、全国の真宗寺院でお勤めされておりますが、念仏のみ教えを私達に示し伝えて下さいました、親鸞聖人への報恩感謝の思いからお勤めさせていただく、浄土真宗での一番大切な法要といつてもよいかと思ひます。ご本山では、新暦の命日をご満座法要として、1月9日から1月16日までの8日間にわたつて、ご正忌報恩講として勤められます。(旧暦では11月28日が命日です)

一般寺院や門信徒の自宅でもご本山での法要を前に各地域で勤められます。そうした法要は「お取越(とりこし)」などと呼ばれています。「報恩講」の名の由来としては、聖人の33回忌にあたって、本願寺第3代の覚如上人が「報恩講私記」を著されたことによるようです。

かつて、終戦後の時代まで、先輩方の話を伺いますと、小規模の寺院であつても3日間位はお勤めしていたようです。弘教寺でも戦後しばらくまでは、3日間勤めていました。不便な時代ですから、遠方の門信徒の方や、お手伝いする方や、住職方は泊り込みで、法要に参拝、出勤していたそうです。今考えますと大変なようですが、当時の皆さんは聖人に対する報恩の志も強く、もっとゆつたりとした思いでお勤めしていたのではないかと思います。

弘教寺におきましては、12月の第一土曜日、日曜日の2日間を報恩講法要の日取りとして定めています。ここしばらくは、初日の午後よりお逮夜法要をお勤めし、壮年会、婦人会の合同報恩講としています。多くの方々に気楽に参拝いただきたいという思いから、バザーやイベント的なものを入れさせていただいております。

二日目は、お斎(とき)の精進料理を取っていただき、ご法話、ご満座法要で終了いたします。



弘教寺 報恩講法要

年に一度の大切な法要です。また一番華やかな法要ですので、門信徒の皆様是非ご参拝下さい。(住職)

◆本文中、「聖人」と表記している箇所は、「親鸞聖人」を表します。



10月28日早朝の出発、台風の影響が心配されましたが3日間は好天に恵まれた旅行になりました。

最初は浅原才市ゆかりの寺・安楽寺の参拝です。念仏信仰の極地にまで達した妙好人・才市さんの生い立ちや、人となりを前坊守様よりお話いただきました。

「才市や 何がおもしろい 迷いの浮世がおもしろい 法をよるこぶ種となる などもみだぶつの花ざかり」南無阿弥陀仏の世界を感じたひとときでした。

2日目は日御碕^{ひのみさき}、出雲大社、松江城などを観光しました。燈台と城の階段の昇り降りは、目に響く景色とともに足にも響いたことでした。その日の宿、

「玉泉の湯」では心も足もすっきり癒やされ、美味しい本場の味を満足いたしました。初めて参加した弘教寺仏壮・仏婦合同研修旅行でしたが楽しい思い出となりました。ご準備頂いた方々に感謝申し上げます。(加藤の)

出雲路の旅

妙好人と神話・妖怪を訪ねる

出雲の神々に別れを告げて一路は凜とそびえ立つ松江城に、眼下には城下町が立ち並ぶ。現代の松江市の礎に尽力された堀尾吉晴翁像は、城と民を見守っている

眼差しの様です。内堀に遊覧船が巡り、そぞろ歩く道には老松と武家屋敷が色濃く情緒あるスポットです。

日本文化を愛し世界に知らしめた小泉八雲。記念館では愛用品資料等が展示されていきました。松江で暮らしたその間に日本の伝説や怪談話などの多くの作品を残されています。

玉造温泉では美肌になる湯に入り、宴会もはつらつと踊りに歌に興じ親睦を深める。宴会後宿のロビーでの本場の安木節、どじょうすくい等は満席の観衆を魅了させました。

翌朝は5万坪の敷地をもつ足立美術館、名園と名画は圧巻でした。境港で昼食、鮮魚を各自で購入しました。水木しげるロードでは妖怪のモチーフが点在し、着包みの妖怪とのスナップ写真が微笑ましい光景でした。

3日間晴天に恵まれ無事に帰宅出来たことに感謝します。(小林か)



第7回東日本(第一連区)

仏教壮年会大会に参加して

10月5日(土)～6日(日)に築地本願寺本堂にて同大会が開催され、当寺からは10名参加致しました。2日間に亘る開催でしたが、私達は初日5日の大会のみの参加としました。

開会式は午後2時に始まり、「讃仏偈」の勤行。仏壮連盟綱領の唱和。役員の挨拶。本願寺派仏壮連盟理事長の祝辞の後、参加者全員で「仏教壮年の歌」を斉唱しました。

記念法話は「み教えに生きる」と題して本願寺派勸学寮頭の徳永一道師が行いました。

師は京都女子大学で33年間の教鞭を執っておられたそうです。質疑応答の後、各教区における仏壮活動報告があり初日の大会は閉会となりました。(貝塚しゆ)

【補足】「連区の説明」国内の教務所(教区)を五区分し、北海道・東北・東京・長野・国府・新潟の6教務所(教区)が第一連区に属する

石渡紀子さん初の女性優勝

第18回弘教寺ゴルフ会秋のコンペが10月22日に小幡郷ゴルフクラブで開催され、初めて女性が優勝しました。大会は総勢25名が参加し男女を問わず技を競いあう中で



石渡紀子さんがネット70の好成績で優勝し、優勝杯を手に入れました。どなたにも優勝のチャンスがあります。皆様の参加をお待ちしております。(貝塚き)

「五感で遊ぶ」ー子ども達への願いー

自分の手で作ったもので遊ぶ、自分の手で作ったものを食べるということは、子ども達が五感を使って体験することです。バーチャルな世界が身近な今こそ、見る・聞く・嗅ぐ・味わう・触ることー五感をフル活用して体験することが子ども達の成長に大切なことです。

鉛筆削りっこや竹とんぼで小刀を使い、防災コンロで火や鉄を使い、どろだんごで泥を体感し、凧揚げで糸を結び風を感じる。自分で苗植えした野菜のサラダ作り、柏餅・おだんごスープリング・あん餅・五平餅は、こねたり丸めたりして作って食べる。住職のご法話を聴き、紙芝居で昔語りに聞き入り、スタッフと異世代間交流を楽しむ。この様に今年度の集いも楽しめたかと思えます。8月は47名、他の月は17名の参加でした。子ども達のはじける笑顔をもっと増やしたいと思えます。スタッフの方も楽しく張り切ってお手伝い下さっています。これからも土曜日



のご都合をつけて、子どもの集いへの参加をよろしくお願ひ致します。(坊主)

「今後の子どもの集い予定」

- ・12月7日 フィオーレ・カルテットコンサート
- ・12月23日 風・お餅つき
- ・2月8日 竹とんぼ・五平餅

◆出会い◆私の履歴 橋本勝(釈蒙照)

四国・讃岐の山村農家の四男(8人兄弟)で昭和13年に誕生し、高卒の昭和32年に明電舎に集団就職し上京。仕事は発電設備のシステム設計助手で品川工場から始まる。昭和45年に静岡沼津工場へ、平成元年には群馬太田工場に転勤する。平成14年に太田で家庭を顧みる余裕もなく、仕事で明け暮れた45年間の勤務を終える。

両親の往生が機縁で築地本願寺の紹介で平成8年に弘教寺との「ご縁」をいただく。平成9年に発足の壮年会に参加をするが、私自身は仏教に全く疎遠でした。そのため図書館に足を度々運ぶ日々。仏教の經典は「如是我聞」で始まります。「ご聴聞」の大切さを知らされ、研修会には積極的に参加をさせてもらい、「気づかされて変わる」との大切さを教えられた。

仕事の関係でパソコン操作が身に付き、寺報作りに平成17年の創刊号からお手伝い。寺報の継続を本願寺での門徒推進員教修で誓う。子ども集いには孫が幼児から参加。子供目線での遊びに童心に還り心が癒やされ年6回を楽しむ。

妻の往生後、娘家族との同居が始まり、寺の行事・旅行、夜学の同期との旅行ができ、地域の行事にも呼び出される。好きな事で楽しめる



ありがたい生活は、仏様の加護によるものと感謝をする毎日です。今まで通り自分の出来るお手伝いを続けたいと思っています。合掌

※編集後記※

「二つの言葉で喧嘩して、一つの言葉で仲直り」、山崎龍明先生のご本に出てくる言葉です。言葉を出さないと何も伝わりません。皆さんのご協力です。寺だよりも26号を発行する運びとなりました。編集会議は先ず項目を選び執筆者を決めますが、出来るだけ多くの人に参加を頂くようにしています。編集部で欲しいのは、「読者の声」です。ご住職がお盆やお彼岸に門徒宅を回られたり、法事でお寺にいられた際、お気軽に皆様の声をお寄せ下さい。(玉田た)

◆行事予定◆(平成25年12月～平成26年3月)

月別	弘教寺の行事予定	教区・群馬組の行事予定
12月	7日 仏壮・仏婦合同報恩講・コンサート	
	8日 弘教寺報恩講	
	12日 婦人会忘年会	14日 教区仏教壮年会理事会
	15日 壮年会例会(第5回)忘年会	
	20日 婦人会例会	
1月	23日 子どもの集い	
	1日 元旦会	9～16日 本山御正忌報恩講
	17日 婦人会新年会	
2月	26日 寺役員新年会	
	8日 子どもの集い	18日 組ビハーク(若宮苑涅槃会)
	9日 壮年会例会(第6回)	
	21日 婦人会例会	22～23日 教区仏壮結成記念日研修
3月		4日 教区仏婦一日研修会
		9日 教区仏壮理事会
	28日 婦人会例会	18～24日 春彼岸